平成18年10月16日

日本細菌学会

関東支部ニュース

第47号

第89回　日本細菌学会関東支部総会開催にあたって

第89回日本細菌学会関東支部総会長
群馬大学大学院 医学系研究科　生体防御機構学講座 細菌感染制御学
池　康嘉

今回の日本細菌学会関東支部総会は北関東の群馬で開催させていただきます。

期日は平成18年11月16日（木）13：00～平成18年11月17日（金）12：00です。

群馬といえば、温泉です。私の仕事場の群馬大学医学部から車で約20分の場所にある榛名山の中腹に、名湯、伊香保温泉があります。その中の一軒宿、森秋旅館会議室（群馬県北群馬郡伊香保町60（0279－72－2601））にて開催いたします。紅葉真っ盛りの季節に温泉につかり、美味しい料理を食べながら、大いに細菌学について討論していただきたいと思います。支部の中の、さらに地方で開催する地方会は、少人数の研究者が一ヶ所に集まり、身近に相互の研究発表、意見交換、討論、懇親が出来る良い機会と考えます。

細菌感染症あるいは感染症関連の多くの学会、研究会があります。その中で細菌学会はそれらの学会、研究会の基盤となる学会で、必要に応じて細菌学の研究により得られた知見に基づく情報提供を行う社会的役割があると考えます。たぶん他の多くの生物学的研究分野も同じ状況と考えられますが、長い細菌学研究の歴史の中で今の時代は新たな生物学的発見がなかなか出にくい時代でもあります。しかしながら、それぞれの研究者が対象とする各種の菌において菌種に特異的な発見があり、発見された現象が菌種に普遍的な形質に基づくもので、感染症成立の解明につながっています。私たちはそのような発見を求めて日々研究生活を送っているものと考えます。支部会においては、それらの研究生活の一部を持ち寄って皆で気楽に討議できればと願っています。

演題は、未発表のもの、研究途中のもの、既発表のものでも再度紹介していただけるもの等、それぞれの研究者の研究の現状を紹介していただければ良いかと思います。

プログラム

1．ミニシンポジウム

応募していただいた演題をテーマ別に分類して、シンポジウムを行います。

2．招請講演　1

演題：「韓国における薬剤耐性菌の現状」

演者：Park, Yong Ho　教授　（国立ソウル大学獣医微生物学講座）

韓国の薬剤耐性菌の現状、家畜分離薬剤耐性菌と人分離薬剤耐性菌の関連等を講演してもらう予定です。

3．招請講演　2

演題：「腸球菌眼内炎」

演者：大橋　裕一　教授　（愛媛大学医学部眼科学講座）

腸球菌は典型的な日和見感染菌ですが、腸球菌による眼内炎は、感染から病状の進展の速さ、病状の重篤度等、強毒菌類似の感染症をおこします。眼科領域で最も予後の悪い感染症とされています。

細菌学会関東支部会の新会期にあたる活動方針について

日本細菌学会関東支部長　国立感染症研究所　　渡　辺　治　雄

平成18年会期より３年間、関東支部会の支部長を仰せつかりました渡辺です。新規評議員の先生方とともに、関東支部会の活動の活性化（陳腐な言い回しですが）に向けて努力したいと思います。評議員は、支部の活動を高めるアイデアを出し、その実行に向けて努力する立場でありますが、全体の活動の源は会員全員の意見、意志であります。全会員の皆様の支部会の各活動への積極的な参加あるいはよりよい助言をよろしくお願い致します。学会の使命は、

1）研究発表の場の提供（データへの相互批評、研究の質の向上）

2）会員同士の情報交換の場の提供

にあります。

今まで支部会でも活性化のためにいくつかのことが試行されて来ていますが、今回の支部会でも同じようにできるだけのことを試していきたいと思います。これをやれば全てうまくいくというものはないと思いますので。

そこで、評議員会での検討結果を元に以下の３点を提案いたします。

1）支部ニュースの伝達にウェブサイトを用いる：今までの年１回発行の紙面による支部ニュースでは会員の先生方にアップデートの情報を提供できかねます。そこで関東支部会員用のホームページを持ち、そこで会員の先生方にできるだけ新しい情報を提供したり、会員の先生方からの情報を載せたりして、情報交換の場をさらに拡大したいと考えております（詳細は楓村編集委員長より報告いたします）。紙媒体支部ニュースの印刷代、発送費用等をウェブサイトの開設、維持費用に向けても、今までよりコスト的に安くなると試算しております。印刷体の配布はしないことになりますが、今までどおり印刷体を希望する方には、その旨を連絡していただければ、ウェブサイトのものを印刷して送付する予定です。

2）若手会員の方の海外での発表を支援する：来年度から40歳未満の会員の方の海外での学会等での発表を支援するためいくらかの資金（額はまだ未定）を援助することを提案いたします。今年末までには応募要領を決め、公募する予定ですのでふるって応募をお願いします。学会等の印象記を上記支部ウエブサイトに載せますので原稿をよろしくお願いいたします。

3）自らによる研究集会の提案：今回の評議員に選定された先生方には、何人かで組になり特定なテーマでのシンポジウム等の研究集会を企画していただくことにいたしました。異なる分野の先生方が評議員になられておりますので、それなりのテーマで面白い集会ができるものと期待しております。もちろん会員の先生方からの持ち込みシンポジウムも歓迎いたします。これにより、今まで行われておりました「学術集会・研究会補助金事業」を、例年特定の団体からしか応募がなかったこともありましたので、今年度から廃止にいたしました。

とりあえずの取り組としましては、上記３項目を重点的に行う予定です。会員の先生方からのコメントおよび更なるご提案を宜しくお願いいたします。

関東支部ウェブサイトの開設と運用

編集委員長　帝京大学医真菌研究センター　　槇　村　浩　一

日本細菌学会関東支部として開設するウエブサイトとその運用についてご説明いたします。既に渡辺支部長からご案内がありました通り、本年度をもって紙媒体の「日本細菌学会　関東支部ニュース」の役割をインターネット上のウエブサイトに移行する事になりました。

これに伴い、編集委員会の役割も紙媒体の編集から、電子媒体の編集へと移り変わることになります。今後の予定としては、年内をめどに「日本細菌学会　関東支部ウエブサイト」（写真：試作段階のブラウザ像）を独自に開設し、「日本細菌学会ホームページ」（http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsb/）と相互に連携できる体制を検討しています。

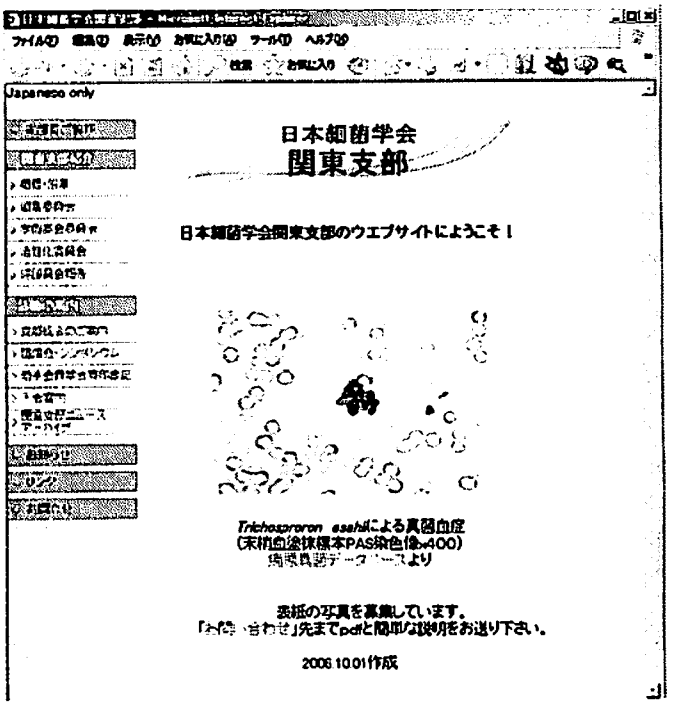
内容的には、会員向けにアップデートの情報を提供することが主たる目的となりますので、会員等から頂いた情報を元に、学会・集会等（含む支部総会）の開催案内と必要な連絡等を中心に掲載いたします。更新は緊急時を除いて、当面は隔月で行う予定です。

また、インターネットに接続する環境が得られない会員には、ウエブサイト掲載（または更新）内容を年１回Fax等にて送信することも検討しております。ご希望の方は槇村宛お知らせ頂ければ幸いに存じます。

「日本細菌学会　関東支部ウエブサイト」についてのご意見、ご要望、ならびに掲載のご依頼は下記まで頂ければ編集委員会にて検討の上、対応させて頂きます。掲載のご依頼は必ず電子メールでお願いいたします。

「日本細菌学会　関東支部ウエブサイト」連絡先
帝京大学医真菌研究センター　槇村　浩一
住所：〒192-0395　東京都八王子市大塚359
電話：0426-70-7413、78-3256
ファックス：0426-74-9190
電子メール：makimura@main.teikyo-u.ac.jp

編集委員一同、会員の利便にかなうべく努力する所存ですが、紙媒体に比較して、良くも悪しくも本質的に流動的なウエブサイトの運営上、会員各位のご協力に負うところが大きいものと認識しております。何卒よろしくお願い申し上げます。



第88回日本細菌学会関東支部総会を終えて

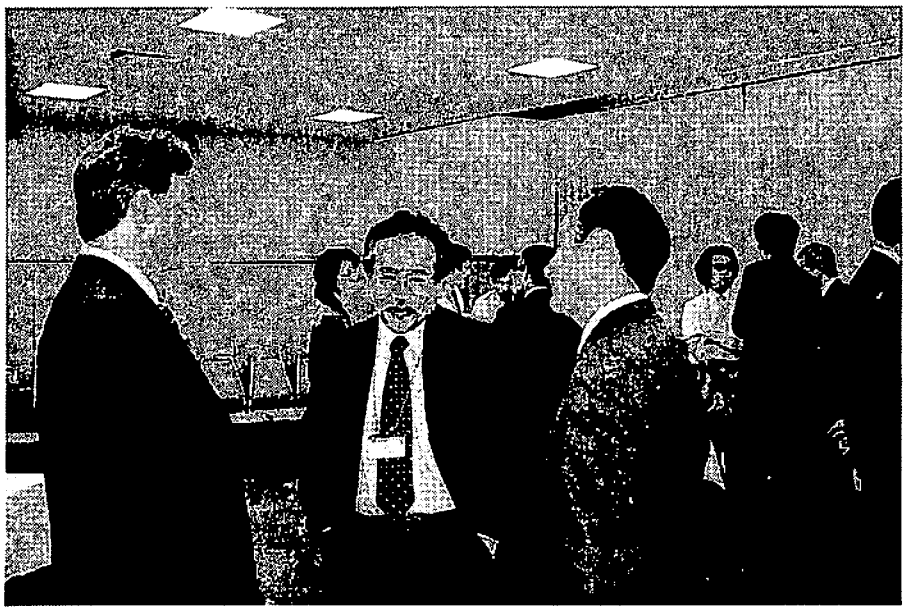
第88回日本細菌学会関東支部総会長
浜松医科大学感染症学大講座（生体防御部門）　小出　幸夫

慣れとは恐ろしいもので、小生は完全にメール依存症になっている。大学で頻繁にメールをチェックするだけでなく、我が家でも寝る前にメールをチェックしないと落ち着かない。先日（7月18日～21日）、鹿児島のホテルで日米医学協力会（結核・ハンセン病）が開催されたので、これに出席した。会場内では無線LANを飛ばすとのことで、当然パソコンを持参した。他の先生が発表されている薄明かりの中、こっそりとパソコンを立ち上げ、メールをチェックした。何か良い便りは無いかと探したところ、多くのspam mailの中に細菌学会関東支部会とのタイトルのメールがあった。それが、この原稿依頼である。既に忘却の彼方にある支部会の報告を書くのは辛い。他の先生の発表中にメール・チェックをした罰が当たったのかなと自戒している。

さて、前置きが長くなったので、本題に入らねばならない。第88回日本細菌学会関東支部総会は平成17年10月20日（木）～21日（金）に亘って、浜松駅横のアクトシティ浜松コングレスセンターで行われた。参加人数は予想を下回って約70人。浜松は関東支部の最西端に位置するので、当初から100人以下と考えていたが、200人収容できる会場に70人は些か寂しい感があった。それでも、若手研究者の参加が多く、活気が溢れていたことに救われた思いがした。昨年から優れた発表を行った若手研究者にベストプレゼンテーションを授与することにしたことが影響していたのかも知れない。

支部総会は一般演題、シンポジウム、特別講演で構成した。

シンポジウム1は「ワクチン開発の新戦略」というタイトルで奥田研爾教授（横浜市立大学）と今井康之教授（静岡県立大学）に座長



をお願いした。結核に対する新規ワクチン、ウイルスベクターを用いたワクチン、および粘膜ワクチンの発表があり、現時点でのワクチン研究の最前線を知ることが出来た。

シンポジウム２は「Vector-borne disease」と題し、増澤俊幸教授（千葉科学大学）に企画を全面的にお願いした。座長には大橋典夫教授（静岡県立大学）にも加わっていただいた。この企画では日本における斯界の権威が集まっておられ、大変興味深かった。日本紅斑熱を発見された馬原先生自身から講演をいただいたり、ボレリア、バルトネラなどの細菌のみならず、デング熱、ウエストナイルウイルスなどのウイルスの講演をいただけたのは地方会に許された自由度によると考えている。

また、特別講演では小生の親友であるワシントン大学のDr. Mark J. Millerに「Two-photon imaging of the immune response to *Listeria monocytogenes* infection in mice」の講演をお願いした。２光子励起顕微鏡では深部の蛍光を鋭敏に検出できる。これを利用して脾臓においてリステリアに感染したマクロファージ、樹状細胞、とＴ細胞との相互作用を様々な蛍光色素を駆使してリアルタイム・イメージング解析を行った結果が示された。カラフルなビデオ映像に多くの参加者が驚嘆した。

一般演題では若手研究者の多くの優れた研究成果が発表された。前記したベストプレゼンテーションには鈴木仁人君（東京大学医科学研究所）と大矢麻衣君（千葉大学）が選出された。この選出は難航したが、予め決めておいた選考基準に基づいて行われた。後で聞いた話では、参加した多くの若手研究者がこの賞を狙っていたそうで、この賞は支部総会の活性化に資するものと確信した次第である。また、選考から洩れた方も実力に差がなかった為、再度のチャレンジをお願いする次第である。

最後に、手作りの支部総会を支援してくれた浜松医科大学の教室員、プログラム委員に感謝の意を表すると共に、会員の皆様方の益々の研鑽を祈念して筆をおく。

日本細菌学会関東支部　平成18年会期　第１回評議員会

日時：平成18年２月27日10：30～12：00

場所：国立感染症研究所　細菌第一部　セミナー室

出席：荒川宜親、石原和幸、遠藤美代子、川本　進、北里英郎、下地善弘、
関崎　勉、滝本博明、平井義一、槇村浩一、森田耕司、渡辺治雄
オブザーバー　神谷　茂　前支部長

欠席：岡村　登、進士ひとみ

１．神谷　茂前支部長からの申し送り

神谷前支部長より以下の申し送り事項が伝えられた。

・平成18年期より、支部ニュースの発行が年に一度であることが前回会務総会で了承され、決定している。

・支部総会長には平成18年群馬大学池教授、平成19年国立感染研荒川部長が決定している。

・支部総会を活性化するひとつの方策としてベストプレゼンテーション賞の授与が効果的であったと考えられるが、今後、支部会計ではなく、支部総会長の予算より支出して頂く事で依頼したい。

・支部会の活性化として、ホームページの立ち上げを目指してきたが、その維持の方策を含めて検討課題が残されている。

２．活動方針

渡辺支部長より、平成18～20年期の活動方針に関して意見が述べられ、討論が行われた。

・予算的には年間180万円の活動費があると考えられる。この有効活用に知恵を絞る。

・支部会として、様々な議論の場を会員の方々に徹底的に提供する。しかしながら、学会・シンポジウム過多の東京地方の現状を考えるとテーマ設定を適切に行わなければならない。

・他分野との交流を支部会レベルで行うことも有効であるが、恒常性を持たすことは多学会の地区割りの相違から難しい。これに関して、支部総会における、あるいは単独で行うシンポジウムのテーマ設定に工夫をこらすことに努力すべきであろう。

・会員への情報提供方法のマルチチャンネル化（ホームページ、メールマガジン、冊子体）、および簡素化による経費削減等の方針を平成18年期において固める。

３．委員会と委員長の決定

支部長により、槇村編集委員長、関崎学術集会委員長、北里活性化推進委員長の３名が指名され了承された。ついで、各評議員の所属委員会が以下の通り決定された。

編集委員会

委員長　槇村　浩一
岡村　登
進士　ひとみ
森田　耕司

学術集会委員会

委員長　関崎　勉

遠藤　美代子
下地　善弘
滝本　博明
平井　義一

活性化推進委員会
委員長　北里　英郎
荒川　宜親
石原　和幸
川本　進

4．学術集会・研究会補助金応募状況ならびにその取り扱い

平成18年度学術集会・研究会補助金の応募状況は現段階で１件であったが、審議した結果、申請案件に対して補助金配分は行わないことになった。公募期間は３月末までであるので、新規応募がなされた段階で個別に審議を行い助成の有無を決定することになった。

平成19年度に開催される学術集会・研究会に対する補助金の公募に関しては、他の活性化策との兼ね合いから見合わせることが決議された。

5．平成18年期　第２回評議委員会

次回の評議委員会は４月下旬から５月上旬に開催予定とし、スケジュールの調整を行うこととなった。

日本細菌学会関東支部　平成18年会期　第２回評議員会

日時：平成18年５月22日18：00～19：30
場所：国立感染症研究所　細菌第一部　セミナー室
出席：遠藤美代子、北里英郎、下地善弘、関崎　勉、滝本博明、平井義一、槇村浩一、進士ひとみ、渡辺治雄
欠席：荒川宜親、石原和幸、川本　進、岡村　登、森田耕司

1．３委員会報告　それぞれ以下のことが報告された。

編集委員会：

・６月上旬に前広報委員会との引き継ぎが予定されている。
・今年度の活動としては支部会ニュース（第47号）の発行を行うことが決定している。
・支部会ニュースからの情報媒体の移行として、関東支部会ウエブサイト（ホームページ）を立ち上げることを検討する。
・ウエブサイトの立ち上げに伴い、冊子体としての支部会ニュースの発行は不要となり、情報の迅速化と経費の軽減は見込まれる。
・ウエブサイトの所在は、本部ウエブサイトの一部として管理運営をお願いする形が可能か、あるいはＵＭＩＮ(University Hospital Medical Information Network) 等を利用した独自サイト（編集と維持管理に多大な労力が必要）にするか等検討を要する。
・支部ニュースの利用媒体の変更等については、次回までに委員会案を提出する。

学術集会委員会：

・学術集会委員会を対象としてアンケート

を実施した。

・支部総会とは時期的に独立した関東支部主催のシンポジウム開催のための検討をはじめる。

活性化推進委員会：

・前活性化推進委員会　荒川委員長との引き継ぎが予定されている。

・若手研究者を対象とした、海外学会発表支援策の検討をする。

2．日本細菌学会からの支出金および支部会費の送金について

日本細菌学会より、支部支出金および支部会費　計 1,679,821 円が 5 月 9 日に送金され、入金が確認されたことが報告された。

【編集後記】

新しい編集委員会の最初の仕事が、この47回を重ねる「日本細菌学会関東支部ニュース」冊子体「最終号」の編集であります。紙媒体最後の編集という事実に対する感慨にふける間もなく、電子媒体「日本細菌学会関東支部ウエブサイト」の立ち上げにも追われることとなり、不慣れの上に不手際甚だしいのですが、なんとか印刷に漕ぎ着けました。偏に、ご多忙にも係わらずご執筆・ご協力頂きました会員各位の賜と、編集委員一同感謝申し上げます。今後は、変わらぬご支援をウエブサイトに賜りますよう、お願い申し上げます。

（K．M.）

日本細菌学会
関東支部ニュース
第47号（最終号）
（2006．10．16）
発　行：日本細菌学会関東支部
〒162-8640　新宿区戸山１－23－１
国立感染症研究所　内
支部長　渡辺　治雄
編　集　岡村　登
進士　ひとみ
槇村　浩一（責任者）
森田　耕司
Tel：03-5285-1337
Fax：03-5285-1193
E-mail：haruwata@nih.go.jp